

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月13日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330142

研究課題名（和文）「多文化」時代における日本の社会不平等:人の移動と格差問題の関係を探る

研究課題名（英文）Social Inequality in an Age of Multiculturalism:

Analyzing the Relationship between Social and Geographical Mobility

研究代表者

竹中 歩 (Takenaka Ayumi)

東北大学・大学院文学研究科・非常勤講師

研究者番号：60564680

研究成果の概要（和文）：

本研究は、在日外国人の社会移動を分析することを目的に立ち上げられた。「ニューカマー」と言われる在日外国人が急増した1980年代以降、彼らは、これまでどの程度、そしてどのように社会的地位の向上を成し遂げてきたのか。在日ニューカマーの体系的なデータを収集することで、人の動きと社会移動の関係を見極め、新たな視点から日本の不平等問題について考察することを試みた。初年度は、調査票の準備と質的データの収集に従事し、二年目は、質的データから得られた知見を基に、インターネットを通じた量的データを収集した。最終年度は、インターネット調査を継続することでサンプル数を拡大し、その後、データ整理と分析を行い、結果の一部を国内外の学会で発表した。データの分析は現在、継続中であるが、ニューカマーの社会移動のパターンは、出身階層ではなく、出身国・地域により大きく異なること、そして、日本社会に同化することが必ずしも彼らの経済達成には結びつかない事が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The objective of the research was to analyze the social mobility of “newcomers” or foreign migrants who arrived in Japan after the late 1980s. To this aim, we collected large-scale data on foreign migrants based on both qualitative and quantitative methods. Qualitative data were derived from in-depth interviews with 130 foreign migrants (Year 1), while quantitative data were obtained through an Internet-based survey (Year 2 and 3). We have found so far that social mobility patterns vary significantly among the major nationality groups and that they depend more on migrants’ region of origin rather than on class origins.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2011年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2012年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：国際社会、エスニシティ、国際人口移動

1. 研究開始当初の背景

「ニューカマー」と言われる在日外国人が急増した 1980 年代以降、日本社会は大きく変化し、「多文化共生」や「格差」の問題が活発に議論されるようになった。しかし、ニューカマーは、日本の「格差議論」から常に除外されてきた。在日外国人に関する体系的なデータが不足しているためである。その結果、この 20 数年間、ニューカマーたちが、どのように日本社会に適応し、どの程度まで社会的地位の向上を成し遂げてきたのか、明らかにされてこなかった。このような状況の中、本研究は、ニューカマーの社会変動を体系的、かつ横断的に比較調査するためのデータを収集することを目的に立ち上げられた。

日本の「格差」議論を発展する上で、ニューカマーの社会移動の動向に目を向けることは有益である。日本人とは異なる出自を持つ外国人が、どのような差別を受け、どの程度まで新たな日本の構成員として社会的地位を向上することができるかが、日本社会の流動性と閉鎖性の本質を解明する鍵となるからである。多様化が進む日本で差別構造の根本を理解するには、今日まで注目されてきた個人的要因（出身階層や教育レベル）やジェンダーの違いのみでなく、エスニシティ（国籍、民族、文化）も視野に入れる必要がある。また、今後も増え続けるであろう外国人が、日本の格差問題にどう影響するかは、重要な問題である。

このような問題意識が、本研究を開始する動機となった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、在日外国人の体系的なデータを収集することにより、彼らの社会移動を分析し、新たな視点から日本の不平等問題を再考・解明することである。こうした分析を進めるためには、データが不可欠であるため、本研究では、サーベイ調査と聞き取り調査を通じて量的・質的データを収集した。現在盛んに行われている日本の「格差問題」議論が国内の枠組みのみで捉えられる傾向があるのに対し、外国籍住民に視野を当てることにより、議論を一層発展させていくことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、聞き取り調査とサーベイ調査を通じて量的ならびに質的データの両方を収集した。双方それぞれのメリットを活かす

ことで、外国籍住民の適応を多角的に調べることができるからである。

初年度の聞き取り調査では、面接対象者を主なニューカマー集団である南米系、欧米系、中国人、韓国人に絞り、関東在住の 20 歳以上、外国生まれの長期日本居住者を中心に約 130 標本のデータを収集した。平均 1 時間半に及んだ各聞き取り調査は、留学生などの協力を得て実施した。この調査では、各言語に翻訳した調査票を用い、移動の動機や職歴、家族構成、将来の計画などについて幅広く質問した。

二年目からは、より広範囲な量的データを確保するため、インターネットを通じた調査を行った。調査会社の協力を得て実施したこの調査では、質的データと同様に、大都市圏に住む主要な集団を対象にした。二回にわたって実施したこの調査では、合計約 1,800 のデータを収集することができた。

4. 研究成果

本研究を通して得られた成果は、主に三つある。第一に、在日外国人に関するデータを幅広く収集することができた。聞き取り調査と二回のインターネット調査を通して、合計 2,000 近い対象者からデータを取得した。このデータは、後に匿名性が確保した時点で整理し、インターネット上で公開する。

二つ目の成果は、これまでの分析の結果、外国人の新たな「同化」のあり方が見えてきた点である。一般に海外、特に欧米の移民研究によると、移民はホスト社会に同化すればするほど経済的達成を成し遂げ、社会的地位も上昇すると言われてきた。しかし、在日外国人の社会移動を見る限り、必ずしも同化することが社会上昇に結びつかないことが明らかになった。「Negative Assimilation」（負の同化）と呼ばれるこのような現象は、欧米の高度な技術を要する一部の移民の間で指摘されてはいたものの、このモデルが広範囲に適用されるとは考えられていなかった。日本を始め、諸外国で、教育や技術レベルの高い「高度人材」移民を誘致する動きが活発化する今日、こうした研究結果は、移民の社会統合と政策を考えていく上で極めて重要である。今回の研究は、そうした意味で、国内外の移民研究の発展に寄与するものである。

更なる成果は、本研究が、今後、研究を継続していく上で重要な基盤を築いた点である。本研究で得たデータの分析は、今時点で継続中であり、現在、移民第二世代（日本で生まれ育った外国にルーツを持つ子どもたち）の教育達成の要因について執筆中である。

今後は、外国人と日本人の社会移動のメカニズムを比較し、更には諸外国の外国人との比較分析も計画している。また、サンプルを更に増やすための追加調査も検討中である。今回の研究成果を基に、今後も外国籍住民の社会移動と社会不平等について、幅広く分析を進めていく。

なお、本研究ならびに今後の研究成果は、データを含め、全てネット上で公開する予定である。執筆中の「在日外国人の社会移動」についての一般向けのレポートを外国人コミュニティ団体や政策関係者に配布するなど、今後も研究成果を幅広く発信していく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① Takekaka, Ayumi, Nakamuro, Makiko, and Ishida, Kenji. 2013. "Negative Assimilation: How Immigrants Achieve Economic Mobility in Japan." Discussion Paper No. 293, Economic and Social Research Institute, Cabinet Office of the Government of Japan. 査読有
http://www.esri.go.jp/en/archive/e_dis/abstract/e_dis293-e.html

② 竹中歩・中室牧子・石田賢示、2013年「移民はどのようにして成功するのか-在日外国人の経済的達成と日本の社会格差」『不平等生成メカニズムの解明』佐藤嘉倫、木村敏明(編)、121-137頁、ミネルバ書房、査読無

③ 土田久美子・竹中歩、2012年、「日本留学生は学生の人間開発に寄与するか」『移動の時代を生きる一人・権力・コミュニティ』大西仁・吉原直樹監修、91-120頁、東信堂、査読無

④ 永吉希久子・中室牧子、2012年「移民の第二世代の教育達成」『移動の時代を生きる一人・権力・コミュニティ』大西仁・吉原直樹監修、41-88頁、東信堂、査読無

[学会発表] (計4件)

① Takekaka, Ayumi, Nakamuro, Makiko, and Ishida, Kenji. "Negative Assimilation: How Immigrants Experience Economic Mobility in Japan" American Sociological Association Annual Meetings, New York, August 10, 2013

② Nakamuro, Makiko, Ishida, Kenji, and

Takekaka, Ayumi. "Education Outcomes of Second Generation Migrant Children in Japan," Western Economic Association International, Keio University, Tokyo, March 16, 2013.

③ Takekaka, Ayumi, Nakamuro, Makiko, and Ishida, Kenji. "Negative Assimilation: How Immigrants Experience Economic Mobility in Japan," NORFACE Research Programme on Migration and the Centre for Research and Analysis of Migration, "Migration: Global Development, New Frontiers," University College London. April 13, 2013

④ Nakamuro, Makiko, Takekaka, Ayumi, and Ishida, Kenji. "The Role of Ethnic and Cultural Resources on the Educational Attainment of Second-Generation Immigrant Children in Japan," International Symposium, Tohoku University. September 28, 2012.

[その他]

ホームページは作成中であるが、現在のところまだ未完成である。

6. 研究組織

(1)研究代表者

竹中 歩 (Takekaka Ayumi)

東北大学・大学院文学研究科・非常勤講師

研究者番号：60564680

(2)研究分担者

中室 牧子 (Nakamuro Makiko)

東北大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号：20598403

リウ・ファーラー グラシア (Liu-Farrar Gracia)

早稲田大学・アジア太平洋研究科・准教授

研究者番号：70436062

川野 幸男 (Kawano Yukio)

大東文化大学・経済学部・准教授

研究者番号：90384693

ファーラー ジェイムス (Farrar James)

上智大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：40317508

李 仁子 (Lee Inja)
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：80322981

(3) 連携研究者

馬 曉華 (Ma Xiaohua)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：30304075

米澤 彰純 (Yonezawa Akiyoshi)
東北大学・大学院教育学部・准教授
研究者番号：70251428

木曾 恵子 (Kiso Keiko)
東北大学・東北アジア研究センター・教育研究支援者
研究者番号：80554401

(4) 研究協力者

土田 久美子 (Tsuchida Kumiko)
研究期間終了：平成24年3月31日
日本学術振興会 特別研究員
(H23 → H24：研究分担者)